

小城市民病院だより

頭の健康を考える (第3回) めまい

脳神経外科医師 田淵 和雄

今回は「めまい」について詳しく紹介します。

Q: 「めまい」とは具体的にどのような症状ですか。

A: 「めまい」は、次の4つのタイプに分類できます。

「回転性のめまい」

じっとしているのに天井や周囲のものがグルグル回っているように感じられます。通常、激しい嘔気・嘔吐を伴います。

「非回転性のめまい」

足が地につかない、雲の上を歩いている、または船に乗っているようなユラユラ、あるいはフラフラする感覚です。

「平衡失調」

歩行中に身体が左右にゆれている感覚で、うまくバランスがとれず、簡単に転んでしまった

「立ちくらみ」

立ち上がった直後、あるいは立っているときに目の前が暗くなり、「仮性のめまい」ともいわれ、時には一瞬、意識を失うこともあります。

Q: 「病気によって「めまい」に特徴があるのでしょか。

A: 「回転性のめまい」を起す病気には、まず良性発作性頭位めまい症、メニエール病、突発性難聴、前庭神経炎、内耳炎、脳の血管障害などがあります。

「非回転性のめまい」の原因としては、メニエール病、内耳炎、突発性難聴、聴神経腫瘍、脳の血管障害のほか、高血圧、低血圧、時にはストレスが関係していることもあります。

「平衡失調」では、良性発作性頭位めまい症、突発性難聴、

メニエール病、中耳炎・内耳炎、聴神経腫瘍など、ときに加齢現象や薬の副作用でも起こることがあります。

「立ちくらみ」では、起立性低血圧、貧血、自律神経失調などが考えられます。

65歳未満の年齢では、「良性発作性頭位めまい症」が最も多く、65歳以上の方では、脳の血管障害が「めまい」の原因であることが多いと考えられています。

Q: 「めまい」が生じたとき、どの診療科を受診すればいいですか。

A: 「めまい」に加えて音が聞こえにくいとか、耳鳴りなどの症状があるときは、耳鼻咽喉科を受診するのが良いと思います。

しかし、「めまい」のほかに手足の痺れ(麻痺)や激しい頭痛、呂律が回りにくい、意識障害などがある場合は、危険な脳の病気が疑われるため、すぐに脳神経外科や神経内科を受診するようにお勧めします。

Q: 「めまい」の治療にはどのようなものがあるのでしょうか。

A: 「めまい」を引き起こす病気がさまざまですので、それに応じた治療が行われます。

薬物治療は「めまい」発作の症状を抑えるだけでなく、慢性的な症状を緩和する目的でも使われます。一般に抗めまい薬は、神経の興奮を抑えて、脳や内耳の血流を改善させることで、症状を抑えます。その他、抗ヒスタミン薬、抗不安薬などが使用されることもあります。

また、脳の血液循環障害が「めまい」の原因である場合は、その病態に応じた薬物治療を行います。時には手術が必要となることもあります。

いずれにしても「めまい」を自覚した場合には、早めに医療機関で精密検査を受け、その原因をはっきりさせることが大切です。



時間外受診をされる方へ

急病などでの時間外受診の場合は、まず電話で宿日直医師の担当診療科を問い合わせ、来院してください。

【問合せ】小城市民病院 ☎ 73・2161 ホームページ・アドレス <http://www.city.ogi.lg.jp/hospital/>